



# 山里の暮らしぶり 未来に伝えたい

熊本高専生がフィールドワーク

八代市・川原地区 7カ所に解説板

全8世帯の集落、八代市東町川原地区をフィールドワークの場としてきた熊本高専八代キャンパス（同市）の生徒らが、集落の暮らしや歴史を伝えていこうと川原地蔵堂（市指定文化財）などに解説板を設置した。

集落は九州山地の谷あい広がる山里で、14人が暮らしている。

建築社会デザイン工学科の森山学教授の指導で、同科や専攻科の生徒が授業の一環として2016年から住民に聞き取り調査。集落の魅力や暮らしぶりを形にして残そうと、昨年は解説板制作に取り組み、12月に住民と一緒に設置した。

30センチ×20センチ程度のスギ製で地蔵堂や山の神、地蔵など7カ所に設置。かやぶき屋根の川原地蔵堂前に立てられた解説板には地蔵堂の説明や「縁側でお昼寝はいかが？」などと訪問客に呼び掛ける言葉を彫り込んだ。集落入り口には解説板の位置を記した総合案内板も設けた。

メンバーの一人、税所航平さん（21）は「住民の要望も聞きながら作った。小さな解説板だが、地区の新たな一歩になれば」と話す。住民の松田喜一さん（64）は「地域の良さを改めて実感できた。とても感謝している」と語った。（福田寿生）